



## アピチャップン・ウィーラセタクン

### ヴィパート・プリチャーノン

アピチャップン・ウィーラセタクン（1970年、バンコク生まれ）は、インディペンデント系映画の監督、アーティスト。コーンケン大学で建築を学んだ後、シカゴ美術館附属美術大学で映画製作のコースを受講し、1997年に卒業。1999年には、映画製作会社キック・ザ・マシーンを共同設立する。4作目となる長編映画『トロピカル・マラディ』（2004年）でカンヌ国際映画祭審査員賞を、6作目の『ブンミおじさんの森』（2010年）では、カンヌ国際映画祭パルム・ドール賞を受賞した。また、大作『プリミティブ』（2009年）のように、美術館で展示されるマルチスクリーンを使った映像作品も手がけている。ウィーラセタクン初の長編映画『真昼の不思議な物体』（2000年）には、即興と協働による映画作りという彼の姿勢がはっきりと示されている。また作風としては、語られることのなかった歴史や恐ろしい記憶、地方に残る神秘主義を、自身の架空の物語に組み込むことが多い。彼の作品は、タイ国内で検閲を受けながらも、世代を超えて同国のアーティストや映画監督に影響を及ぼしている。



アピチャップン・ウィーラセタクン、2017年  
写真：山本 尚明